

事業実績書

|     |              |
|-----|--------------|
| 団体名 | 吉敷地区地域づくり協議会 |
|-----|--------------|

1 地域づくりの活動方針（テーマ）

住民一人ひとりが主体的に地域の中でふれあい、ともに支え合う土壌をつくりあげていくことが重要であり「みんなで支え合う 笑顔あふれるふれあいのまち 吉敷」をスローガンに、次の5つの分野に地域課題を整理するとともに、地域としてこれから目指していく将来像を掲げ、課題解決に取り組んでいきます。

活動目標1「地域振興」ふれあいと交流による元気で住みよいまち  
 活動目標2「地域福祉」ともに支え合い心豊かに暮らせるまち  
 活動目標3「安心・安全」みんなで協力してつくる安心で安全なまち  
 活動目標4「環境づくり」美しい自然をみんなで守る快適なまち  
 活動目標5「地域個性創出」固有の歴史や文化による個性あふれるまち

2 今年度、重点的に取り組んだ視点（事業）

|   |     |  |     |          |
|---|-----|--|-----|----------|
| ① | 視点  | コミュニティタクシー制度の導入による旧出張所・公民館跡地活用の検討        |     |          |
|   | 事業名 | コミュニティタクシー導入事業                           | 決算額 | 335,020円 |
| ② | 視点  | 赤田神社との連携によるホテル観賞の夕べの開催を通じた交流の促進          |     |          |
|   | 事業名 | よしきホテル観賞の夕べ                              | 決算額 | 0円       |
| ③ | 視点  | 文化振興協議会や中尾地区の町内会、市文化財保護課との連携による凌雲寺跡活用の検討 |     |          |
|   | 事業名 | 凌雲寺跡活用                                   | 決算額 | 0円       |

3 今年度の重点的視点（事業）に対する評価

| 検証（成果、来年度以降への改善点等）  | 自己評価 |
|---|------|
| <p>①ふれあいと交流による元気で住みよいまちづくりを進めるために、旧出張所・公民館跡地活用について平成27年度に設置した特別委員会において継続して協議、検討しているもの。高齢化の進展により、今後免許証返納の動きが加速化することが見込まれ、自家用車に代わる移動手段の確保が重要な課題となってきています。そのため、今年度7月に設置した「吉敷地域コミュニティタクシー実証運行協議会」において、昨年度実施した住民アンケート結果を基に跡地活用の観点からも跡地を発着の拠点とした実証運行を行うために、また、各交通機関の乗り継ぎ手段として運行できるように検討を進めました。実証運行協議会では、積極的な地域住民の利用が不可欠であることを伝えるとともに、導入する5地区（赤田、佐畑、木崎、中村、上東）を左回りと右回りで巡回するルートを設定し、行きも帰りも利用できるようにしました。また、コミュニティタクシーを利用することで、JRや防長バス、コミュニティバスの乗り継ぎにより遠隔地にも気楽に出かけることができるようになります。コミタク愛称も募集したところ「コミタク良城」と地域になじみやすい愛称が決まり、5月6日の運行開始が待たれます。</p> | ◎    |

|  |   |
|--|---|
| <p>②吉敷川が貫流する吉敷地域は、県内でもホタルが乱舞する地域として知られており、現在も良城小学校児童や地域住民による「ホタルをはぐくむ会」において、ホタルの増殖・放流事業に取り組んでいます。このような中、吉敷のホタルを通じて、地域への関心や愛着を深め、自然環境の保全の意識の高揚を図るとともに、ふれあいと交流による元気で住みよいまちづくりを推進するために「よしきホタルの夕べ」実行委員会を立ち上げ、昨年度、初日はパネル展示やステージイベント。次の日は、講座の開催とホタル観賞散策とした2日間のお祭りを初めて開催しました。これには、幼稚園、小学校、中学校、良城商工振興会等も参画し、地域ぐるみでイベントを盛り上げました。</p> <p>今年度は開催日を1日として、より多くの地域住民の参加と新たな交流の創出につながるよしきホタルの夕べの開催を予定していましたが、コロナ禍の影響を受け、残念ながら中止を余儀なくされました。今後も引き続き取り組みます。</p>                          | × |
| <p>③山口市が調査を進めている史跡の調査や市文化財保護課が開催する史跡跡での勉強会にも参加しながら、文化振興協議会では、凌雲寺跡の活用について検討を進めており、今年度は協議会委員のひとりでもある中尾西自治会長の呼びかけで、地元の人などにより中秋の名月鑑賞会を開催しました。日が沈むまでは、市文化財保護課の担当職員から史跡の調査状況の説明を受け、主催者の中尾自治会長からは史跡周辺に住む住民として史跡に向き合う熱い想いが語られました。</p> <p>日が落ちてから見える月光に映える石垣の風情は幻想的で壮観です。大内義興が開いたと言われる凌雲寺。中世、西国一の守護大名として栄華を極めたと言われる大内氏。その煌びやかでもあり、壮大な大内時代に夢を馳せることができます。</p> <p>今後も、観月会等を計画し、地域住民に地域資源のすばらしさや歴史を知ってもらう機会を検討していくことにしています。また、凌雲寺跡だけではなく、観桜会など、地域資源を活用したイベントなども計画し、協議、検討していきます。</p> | △ |

◎（大変よくできた） ○（概ねできた） △（課題が残った） ×（全く出来なかった）

#### 4 総括

|   |
|---|
| <p>「吉敷まちづくり計画」をもとに、課題解決に向け地域で活動している様々な団体や行政と連携しながらまちづくりに取り組みました。しかし、今年度は、コロナ禍の影響を受け、中止を余儀なくされたものが多く、大変残念な年でした。</p> <p>その中でも、ふれあいと交流による元気で住みよいまちづくりを推進するために、「よしきフォトコンテスト」では、イベントが少なくなったにも関わらず応募作品の増加が見られました。また、地域ぐるみによる見守り活動の仕組みづくりにも取り組む「ふれあいネットワーク協議会」により、関係団体との意見交換後、デザインを変更した見守りグッズの作製や、一体的な見守りのためのグッズを作ることができ、地域全体で見守りを推進する素地ができました。緊急事態宣言が出され、徐々にコロナ感染拡大防止に努めながらの生活に慣れるにつれ「コロナ禍であるからこそできることは何か」を考える機会が多くなりました。その中でも今年度の秋の祭り「吉敷ふるさとまつり」では、実行委員会メンバーにより、交流センター内で感染拡大を防止しながらでもできることを探すことができました。このように、地域住民や地域づくり関係団体の参画による実行委員会は、地域課題の解決に向けての地域住民の話し合いの場となってきています。</p> <p>また、高齢化の進展により免許証返納の動きが加速化することが見込まれ、自家用車に代わる移動手段の確保が地域住民の看過できない課題となっています。そのため、地域住民の意見を把握するために行われたアンケート調査結果を基にコミュニティタクシー運行を検討する「吉敷地域コミュニティタクシー実証運行協議会」を設置し、令和3年度から実証運行をすることが決まりました。</p> <p>地域情報を広く地域住民に伝えるために、地域住民と地域づくり関係団体等からの参画を得て設立された広報委員会は、地域の情報の収集や発信に努めながら5年が経過し、この間、地域広報紙やウェブサイトの充実に取り組むとともに、作る側と読む側の双方向で意見交換ができるコーナーを新たに設けるなど、広報紙を手にとっていただけるよう工夫を重ね、取り組みました。地域住民からは一定の評価が得られるとともに、山口県公民館報コンクールにおいては優秀賞を受賞することができ、毎年賞をいただいています。</p> <p>地域の史跡等の案内板設置への取り組みについては、今年度は特に山口市交流促進特別交付金を獲得し、吉敷を縦断する肥中街道にQRコードを付けた石柱(道標)を設置し、地域の歴史を知りきっかけづくりにも取り組み、多くの地域住民の評価を得ました。</p> |
|---|

## 5 事業内容

### (1) 協議会運営

|          |   |
|----------|---|
| 事業費      | 7,435,481円（交付金5,122,552円）<br>（内自主財源：2,312,929円）   |
| 事務局の運営体制 | <p>（事務員等の雇用人数） 事務局長1名 事務員3名</p> <p>（運営費の主な内容） 事務局人件費、事務費</p> <p>（成果・評価） 吉敷地域は、地域づくり協議会業務をはじめ、自治会業務、地区社協業務、地区社協が受託する指定管理業務など多岐にわたる業務を4人体制で担っており、事務局員は慌ただしい毎日を過ごすしました。こうしたことから、都度、地域づくり協議会役員とは運営や業務について協議しています。また、地域交流センターとも連携した業務を進めることができるように意見交換に努めています。今年度は、コミュニティタクシー導入に向けた準備の年となり、実証運行協議会を設置することができましたが、年度末に当年度の活動費が届くなど、事業の進め方等について課題が残りしました。</p> <p>（今後に向けて） 地域づくり活動や地域福祉活動支援など、多岐にわたる業務に事務局長1名、事務局員3名体制で効率的に遂行するため、業務の棲み分けや、事務分担の見直しなどに取り組むことが必要であり、地域づくり関係団体や特に地域交流センターとの連携が重要です。</p> <p>年々業務が増加していることから、事務局の負担も増えるばかりですが、少しでも負担を軽減するため、引き続き、地域づくり協議会役員や地域づくり関係団体と協議・連携に努め、事務局運営を行なっていきます。特に、協働によるまちづくりを推進するためには、地域交流センターとは協議・連携しながら行うことが重要と考えます。</p> |

### (2) 地域振興

|      |  |
|------|--|
| 事業名  | ふれあいネットワーク   |
| 事業費  | 527,703円（交付金527,703円）  |
| 事業概要 | <p>（実施内容） 吉敷地域の見守り活動やふれあいあいさつ運動を総合的に推進する「ふれあいネットワーク協議会」において、地域の見守り活動やふれあいあいさつ運動をはじめ、各種イベントや行事等の情報発信などについて取り組みました。</p> <p>（実施時期） 通年</p> <p>（参加人数） 地域住民</p> <p>（成果） ふれあいネットワークの活動の一つでもある「あいさつ運動」では、あいさつの日に合わせて登校時間帯に立哨し、地域ぐるみであいさつ運動に取り組むとともに、テーマを定めて標語を募集し、応募のあった標語の中から選出した作品を地域情報紙「ふるさとだよりよしき」に1年間掲載します。また、昨年度検討された一体的な見守りのためのグッズの見直しや新たなグッズの製作については、関係団体との意見交換の場を設け、グッズの活用方法について協議した後、作ることができました。</p> <p>（評価） 年間を通して、ふれあいあいさつ運動に取り組むことができました。吉敷地域では「あいさつの日」の立哨箇所工夫を加えながら、活動に参加する人の増加に取り組みました。また、吉敷地域の見守り活動やふれあいあいさつ運動を総合的に推進する「ふれあいネットワーク協議会」により、地域住民や地域づくり関係団体とで協議・検討することができるようになり、地域内の様々な情報もメールで配信することができました。また、一体的な活動のためのグッズも作ることができました。</p> <p>（今後に向けて） 引き続き、「ふれあいネットワーク協議会」において吉敷地域の見守り活動を総合的に協議・検討し、今年度作製した見守りグッズを活用し、地域の見守り活動を推進します。</p> |

|      |   |
|------|---|
| 事業名  | コミュニティタクシー導入事業（旧出張所・公民館跡地活用検討）  |
| 事業費  | 335,020円（交付金335,020円）   |
| 事業概要 | <p>（実施内容） 旧出張所・公民館跡地を積極的に活用するために、跡地を拠点としたコミュニティタクシーの運行を検討するとともに、高齢化社会に対応するふれあいと交流による元気で住みよいまちづくりを推進します。</p> <p>（実施時期） 通年</p> <p>（参加人数） 地域住民</p> <p>（成果） コミュニティタクシー導入に係る地域住民のニーズを把握するために昨年度実施したアンケートを基に、吉敷地域の実情に見合ったコミュニティタクシー実証運行協議会を立ち上げ、運行計画を策定することができました。高齢化の進展により、免許証返納の動きが加速化することから、自家用車に代わる移動手段としてコミュニティタクシー導入のための素地ができました。</p> <p>（評価） 跡地を発着の拠点としたコミュニティタクシーのルートに該当する町内会・自治会との連携や担当役員のフットワークにより、協議会の設置や、コミュニティタクシーの周知、停留所等設置に向けての手続きなどがスムーズに進みました。しかし、市に提出する申請書等の手続きについては、年度末に処理が集中するなど、事務処理の進め方や交流センターとの連携については大きい課題が残りました。</p> <p>（今後に向けて） 実証運行で、多くの地域住民が利用できるように広報活動を推進し、本格運行の実施に向けて、吉敷地域コミュニティタクシー実証運行協議会を設置し、そこでは運行計画を作成しました。</p> |

|      |  |
|------|--|
| 事業名  | 夏まつり・ふるさとまつり   |
| 事業費  | 60,348円（交付金60,348円） <span style="float: right;">（内自主財源：0円）</span>  |
| 事業概要 | <p>（実施内容） 夏祭り、秋祭りの開催</p> <p>（実施時期） よしき夏まつり8/13(中止)、吉敷ふるさとまつり11/8</p> <p>（参加人数） 延べ350人</p> <p>（成果） 若者を中心とする実行委員会も6年目となり、コロナ禍での開催について活発な意見交換をすることができ、その結果、ふるさとまつりは交流センター内で開催することができました。新たな企画にも挑戦することができ、準備など円滑な運営ができました。夏まつりは残念ながら中止となりましたが、ふるさとまつりでは、活発な意見が交わされ、新しいアイデアに積極的に取り組むなど、吉敷の祭りに新たな風を吹き込むことができました。</p> <p>（評価） 新たな企画により、多くの参加者とのふれあい、交流が図られるとともに、新たな実行委員を中心とした運営を進めるための基盤づくりが確立されつつあります。</p> <p>（今後に向けて） 新たな委員による実行委員会を継続するため、事務局との役割分担等を検討するとともに、楽しく関われる会にするには実行委員どうしの交流も必要であるため交流にも取り組みます。</p> |

|      |   |
|------|---|
| 事業名  | よしきフォトコンテスト   |
| 事業費  | 662,569円（交付金572,569円） <span style="float:right;">（内自主財源：90,000円）</span>   |
| 事業概要 | <p>（実施内容） テーマに沿った写真のコンテスト</p> <p>（実施時期） 通年</p> <p>（参加人数） 地域住民</p> <p>（成果） 地域住民や地域づくり関係団体で組織する実行委員会の中では、例年通りイベント等への参加者の増加を図るとともにより多くの写真の応募につながるよう検討を行いました。コロナ禍の影響からイベントが少なくなったにも関わらず、地域内外から175点の応募作品を集めることができました。また、応募写真をカレンダーにして配布することにより、多くの方々に吉敷地域のことを知っていただくとともに地域の魅力を再発見していただきました。引き続き、より多くの地域住民の参加と新たな交流の創出につながるフォトコンテストの開催に取り組みます。</p> <p>（評価） 誰もが気軽に参加できるように、フォトコンテストを広報することで、交流したり、ふれあう人々の写真を広く募集することができました。地域内での交流の場や、地域の四季折々に姿を変える美しい景色を広く紹介するための応募作品などを活用した「よしきフォトカレンダー」は形を変えて作成するとともに、地域住民や実行委員からの様々な意見から、今年度は受賞者全員の作品を載せたリーフレットも作成し、好評を得ました。</p> <p>（今後に向けて） 引き続き、地域住民や地域づくり関係団体が集まる実行委員会で、誰もが気軽に応募できる「よしきフォトコンテスト」が継続できるように進めていきます。</p> |

|      |   |
|------|---|
| 事業名  | 人材発掘に向けた交流事業  |
| 事業費  | 0円（交付金0円）   |
| 事業概要 | <p>（実施内容） 地域の人材発掘のため地域交流センターと共催で実施する交流事業について、地域づくり協議会はアクティブエイジを対象に、地域交流センターは若者を対象にした事業をそれぞれ担当し、実施に向けて協議しました。この事業もコロナ禍の影響を受け、今年度の計画は中止となりましたが、若者対象の事業については、スタッフによる休耕田を活用した「YOSHIKIわくわくファームらんど」のみ開園し、収穫した野菜を福祉施設に寄付したところ大変喜ばれました。次年度の進め方についても協議する機会を設けました。</p> <p>（実施時期） 通年</p> <p>（参加人数） 0人</p> <p>（成果） 交流事業は、地域づくり協議会と地域交流センターがそれぞれ「若者」「アクティブエイジ」と担当を持つこととし、それぞれが交流事業を開催することにしていました。コロナ禍の影響を受け、残念ながら実現はできませんでした。</p> <p>（評価） 地域づくりを進めていくには、新たな人材を知ることが重要であり、そのきっかけとなる交流事業は地域づくりの中心的な事業の一つです。事業の実施には至りませんでした。地域の耕作放棄地等を活用して、現役世代親子の参加を募り、農業を体験しながら住民どうしの交流を促進する場を創出する企画について協議・検討を進め、次年度も実施に向けた準備を進めるなど、一定の進捗がみられます。</p> <p>（今後に向けて） 引き続き地域交流センターと連携しながら、人材発掘と育成のための事業を進めていきます。</p> |

|      |   |
|------|---|
| 事業名  | 広報活動  |
| 事業費  | 445,499円（交付金445,499円） <span style="float:right;">（内自主財源：0円）</span>  |
| 事業概要 | <p>（実施内容） 地域づくり関係団体や地域住民等の参画を得て設置した「広報委員会」により、地域住民に対して発信していきたいことや、お知らせしたいことなどを互いに持ち寄り、広報紙やウェブサイトなどを活用して、地域の様々な情報を発信しました。</p> <p>（実施時期） 通年</p> <p>（参加人数） 20人</p> <p>（成果） 地域情報を広く収集しながら、魅力ある広報紙の作成やウェブサイトの充実に取り組みました。また、広報紙に新たなコーナーを設けたり、新たな広報委員も広く地域住民から募集するなど、地域に開かれた広報委員会運営に努めるとともに、町内会・自治会未加入者にも広報誌を手にとっただけのよう配布先の拡大などにも取り組みました。こうした結果、地域住民からは一定の評価が得られるとともに、山口県公民館報コンクールにおいては毎年賞を受賞し、今年度は「優秀賞」を受賞することができました。</p> <p>（評価） より多くの地域住民のもとへ広報紙を届けたいという広報委員の地道な活動により、地域に広く知っていただける広報紙となっています。吉敷地域の魅力を届けたいと、広報委員会では活発な意見も多く出るようになり、新たなコーナー「読者の広場」を設置し、作り手・読み手の双方向で意見交換ができるようにしました。</p> <p>（今後に向けて） 引き続き、紙面の充実や配布の拡大等に取り組んでいきます。</p> |

|      |   |
|------|---|
| 事業名  | 人権学習の推進   |
| 事業費  | 79,243円（交付金79,243円）   |
| 事業概要 | <p>（実施内容） 各種啓発活動に取り組みました。</p> <p>（実施時期） 10月、11月</p> <p>（参加人数） 地域住民</p> <p>（成果） 偏見や差別のない地域社会の形成を進め、ふれあいと交流による元気で住みよいまちづくりを推進するために、幼稚園、小学校、中学校と連携した人権学習の啓発活動に取り組みました。</p> <p>（評価） コロナ禍の影響を受け、例年どおりの活動はできませんでしたが、小学校、中学校との連携により、授業を通して人権の大切さを学ぶ機会を作ることができました。今後も学校等と連携しながら、思いやりのある心を育む人権学習の推進に取り組むことが必要と考えています。</p> <p>（今後に向けて） 引き続き、偏見や差別のないふれあいと交流による元気で住みよいまちづくりに取り組んでいきます。</p> |

|      |  |
|------|--|
| 事業名  | こどもドリームプロジェクト  |
| 事業費  | 0円（交付金0円） <span style="float: right;">（内自主財源：0円）</span>  |
| 事業概要 | <p>（実施内容） 吉敷出身のプロサッカー選手である原川力選手の帰山に合わせて、「こどもドリームプロジェクト吉敷～Jリーガー原川力選手によるサッカー教室～」を開催する予定でしたが、残念ながらコロナ禍の影響により中止となりました。</p> <p>（実施時期） 12月</p> <p>（参加人数） 0人</p> <p>（成果） コロナ禍の影響を受け、今年度は実現できませんでした。</p> <p>（評価） 実施することは叶いませんでしたが、次年度に向けて、セレッソ大阪に移籍された原川力選手の代わりとなる選手や他の方法等についての協議ができました。</p> <p>（今後に向けて） 今後も引き続き、地域の子どもたちが夢を持てるように、吉敷にゆかりのあるプロスポーツ選手やアーティストとのふれあう機会の創出に努めます。</p> |

|      |  |
|------|--|
| 事業名  | ホテル観賞の夕べ   |
| 事業費  | 0円（交付金0円） <span style="float: right;">（内自主財源：0円）</span>  |
| 事業概要 | <p>（実施内容） ホテル観賞を通じて住民の地域に対する関心や愛着を深め、自然環境の保全に対する意識の高揚を図るとともに、幼稚園、保育園、小学校、中学校の子どもたちの発表の場を創出することにより、一層の地域住民の交流を図ります。</p> <p>（実施時期） 6月</p> <p>（参加人数） 0人</p> <p>（成果） 今年度は残念ながら中止となりましたが、次年度に向けて調整することができました。</p> <p>（評価） 吉敷川が貫流する吉敷地域は、県内でもホテルが乱舞する地域として知られており、長い間小学校や地域住民によりホテルの増殖・放流事業継続し取り組んでいます。そのような中、ホテルを通じて地域への関心や愛着を深め、自然環境の保全の意識の高揚を図ったり、交流によるまちづくりを推進するために、地域ぐるみでイベントに関わることは大変重要なことと思われます。</p> <p>（今後に向けて） 引き続き、関係団体との連携により、より多くの地域住民の参加と新たな交流の創出につながる「よしきホテルの夕べ」の開催に取り組みます。</p> |

|      |  |
|------|--|
| 事業名  | 動画による活動団体の紹介   |
| 事業費  | 33,411円（交付金33,411円）  |
| 事業概要 | <p>（実施内容） 団体活動動画等の活用による団体活動のPRと拡充を図り、地域住民の参加を広く呼びかけるとともに、参加体験を通して団体活動の拡充に努めます。</p> <p>（実施時期） 通年</p> <p>（参加人数） 地域住民</p> <p>（成果） 地域交流センターを定期的にご利用して活動している団体の日頃の様子を動画にし、吉敷ふるさとまつりの会場において紹介しました。</p> <p>（評価） 吉敷ふるさとまつりの会場において自由に出入りできる環境の中で実施しました。日頃見ることが少ない団体の活動風景は、知り合いの活動や、新しい活動団体の発見につながったことと思われます。</p> <p>（今後に向けて） 引き続き、地域で活動している団体の活動風景を動画に収め、広く地域住民に紹介することで、団体活動の拡充に努めます。</p> |

(3) 地域福祉

|      |  |
|------|--|
| 事業名  | 大運動会・多世代交流グラウンドゴルフ大会   |
| 事業費  | 56,335円（交付金56,335円） <span style="float:right;">（内自主財源：0円）</span>   |
| 事業概要 | <p>（実施内容） 親睦やふれあいを目的とした多世代交流グラウンドゴルフ大会の開催を目指しましたが、コロナ禍の影響により中止となりました。</p> <p>（実施時期） 11月・3月</p> <p>（参加人数） 0人</p> <p>（成果） 大運動会は、地域で一番大きな交流の場であり、様々な年齢層の住民の方々が交流を深めるとともに、地区を越えた交流ができる大きなイベントであり、親睦ゴルフ大会も地域住民の交流ができるイベントとなっています。また、グラウンドゴルフ大会は、大人と子どもがチームを組む地域独自のルールで楽しみながらプレイすることが定着し、世代を超えた交流が図られています。今年度は、残念ながら実施することができませんでした。</p> <p>（評価） どの大会も新たな参加者を得られるようになってきており、世代を超えた交流ができるようになっていきます。次年度の大運動会の開催に向けて、準備や各地区の選手集めを鑑み、コロナ禍の状況等を含めて協議しましたが、令和3年度は止むを得ず中止が決められました。</p> <p>（今後に向けて） 引き続き、多くの地域住民が参加しやすい事業となるよう、次年度に向けて準備を進めていきます。</p> |

|      |  |
|------|--|
| 事業名  | えがお食堂よしき   |
| 事業費  | 278,145円（交付金256,280円） <span style="float:right;">（内自主財源：21,865円）</span>  |
| 事業概要 | <p>（実施内容） 近年希薄となっている地域住民どうしの交流やふれあいの場を復活させ、ともに支え合い心豊かに暮らせるまちづくりを推進します。</p> <p>（実施時期） 通年</p> <p>（参加人数） 30人</p> <p>（成果） 当地域の事業目的が、地域食堂を通じてボランティアスタッフの発掘や育成、多くの地域住民が食事を通じた交流を楽しむこととしているため、今年度は残念ながら中止となりました。明日花プロジェクトが実施している「エール弁当配布」の事業にはスタッフが参加しました。</p> <p>（評価） 新型コロナウイルスの感染状況等の様子を見ながら、開催できる時期を検討するために実行委員会を開催しました。その中で、地域住民の交流を第1の目的としたえがお食堂よしきは、今年度はコロナ禍の影響を受け、開催できませんでした。また、昨年度の課題を解決するため、地域住民からアンケートを取り、この事業の推進等を協議・検討する予定でしたが、このことについても実施できなかったため、次年度に持ち越し、協議を進めます。</p> <p>（今後に向けて） 地域の温かい気持ち（募金、寄付など）から成り立つこの事業の意図が、無料の食堂として来場している人が多い中、どれだけ浸透しているか。その無料の食堂開設のために、1ヶ月間ボランティアスタッフが活動する意味が見出せなくなる気持ちが大きくなっていることが危惧されていることが、令和元年度の課題として残っています。今後えがお食堂よしきが再開された際には、広く来場者の皆さんからアンケートを取り、この事業の推進をすべきかどうか等も含め、協議・検討を進めていきます。</p> |



(4) 安心・安全

|      |  |
|------|--|
| 事業名  | 地域防災体制の充実  |
| 事業費  | 114,144円（交付金114,144円）  |
| 事業概要 | <p>（実施内容） 地域広報紙などを活用した防災知識の普及・啓発や防災講演会・学習会などの開催に取り組みました。また、避難に係る防災資機材の整備を進め、交流センターに展示することができました。</p> <p>（実施時期） 通年</p> <p>（参加人数） 地域住民</p> <p>（成果） 地区防災会から選出した広報委員により、地域住民に対して活動内容をウェブサイトで紹介したり、自主防災組織等の必要性を伝えてきました。避難時に役立つ防災資機材を展示したり、避難場所での心構えや非常食の試食会など、地域防災事業の推進に努めてきました。</p> <p>（評価） 地域住民に対して防災意識の高揚や防災知識の普及・啓発などを行うとともに、組織内で地区防災会としての避難所運営について行政と協議ができ、一定の事業推進ができました。</p> <p>（今後に向けて） 引き続き、地域防災体制を充実していくため、各町内会・自治会から選出された防災委員との連携体制などの地区防災会の組織強化を進めていくこととしています。</p> |

|      |   |
|------|---|
| 事業名  | 交通安全・防犯対策   |
| 事業費  | 255,000円（交付金255,000円）   |
| 事業概要 | <p>（実施内容） 交通立哨や各種交通安全講座、青パトによる巡回などに取り組みました。うそ電話詐欺防止キャンペーンや防犯パトロールなどに取り組みました。</p> <p>（実施時期） 通年</p> <p>（参加人数） 地域住民</p> <p>（成果） 地域住民に対して、うそ電話詐欺防止キャンペーン、防犯パトロールなどに取り組み、委員が率先して交通立哨などを実施しながら、交通安全や防犯対策等の必要性を伝えてきました。</p> <p>（評価） 地域住民に対して、交通安全やうそ電話詐欺防止への普及・啓発などを行ない、定例的に青パトによる巡回を実施したことにより、地域住民が交通安全やうそ電話詐欺などを普段の生活の中で意識することができました。</p> <p>（今後に向けて） 引き続き、活動を通して地域住民に交通安全・防犯対策等の必要性への周知に取り組みながら、地域の交通安全・防犯対策を進めていきます。</p> |

|      |  |
|------|--|
| 事業名  | 反射鏡の充実   |
| 事業費  | 100,000円（交付金100,000円）  |
| 事業概要 | <p>（実施内容） 町内会・自治会等からの要望に基づき、反射鏡を整備しました。</p> <p>（実施時期） 通年</p> <p>（参加人数） 地域住民</p> <p>（成果） 町内会・自治会からの要望に基づき交通安全対策を実施しました。</p> <p>（評価） 路面表示により交通事故防止に寄与しました。</p> <p>（今後に向けて） 引き続き、町内会・自治会を通して地域住民に補助制度を周知しながら、地域の交通安全対策を進めていきます。</p> |

|      |  |
|------|--|
| 事業名  | 青少年の健全育成   |
| 事業費  | 192,941円（交付金192,941円）  |
| 事業概要 | <p>（実施内容） 青少年の健全育成のための見守り活動や各種啓発活動に取り組みました。</p> <p>（実施時期） 通年</p> <p>（参加人数） 地域住民</p> <p>（成果） あいさつを通じて、地域住民どうしが顔見知りになるとともに、見守り活動を拡大することから、青少年の安心安全、犯罪の抑制を図ることができました。</p> <p>（評価） ふれあいネットワーク協議会の組織の一員として、青少年の健全育成を地域ぐるみで進めることにより、みんなで協力してつくる安心で安全なまちづくりを推進することができました。</p> <p>（今後に向けて） 引き続き、関係団体とともに活動を通じ、連携を取りながら青少年の健全育成のための対策を進めていきます。特に、子ども110番の家の強化を図ります。</p> |

#### （5）環境づくり

|      |   |
|------|---|
| 事業名  | 環境づくり   |
| 事業費  | 876,188円（交付金866,188円）<br>（内自主財源：10,000円）  |
| 事業概要 | <p>（実施内容） 環境美化活動の推進と自然環境の保全に取り組みました。</p> <p>（実施時期） 通年</p> <p>（参加人数） 地域住民</p> <p>（成果） 関係団体との連携のもと、美しい自然をみんなで守る快適なまちづくりを推進することができました。特に、今年度は、コロナ禍の影響を受け中止となった事業の不執行分を、従来からの地域の要望であったハンマーモア草刈り機の購入に充てることができました。</p> <p>（評価） 関係団体からの課題を見つけ、その解決のために関係団体との連携のもと事業に取り組んだことは、今後の取り組みへの糸口が見つけられたものと思われま。</p> <p>（今後に向けて） 引き続き、関係団体との連携を強化し、美しい環境づくりを目指しながら快適なまちづくりを推進します。</p> |

|      |   |
|------|---|
| 事業名  | ホタル増殖・放流事業  |
| 事業費  | 0円（交付金0円） <span style="float: right;">（内自主財源：0円）</span>   |
| 事業概要 | <p>（実施内容） 例年は、学校、地域、行政の連携により、5月には河川清掃、6月にはホタル採取を行い、9月には良城小学生のホタルに関するポスターや標語作品の表彰とホタルの飼育状況の発表といった式典、3ヶ月間良城小学校で飼育したホタルの放流を行うこととしていましたが、全て中止となりました。</p> <p>（実施時期） 5月～9月</p> <p>（参加人数） 0人</p> <p>（成果） 毎年の活動によりたくさんのホタルが飛び交っています。今年度は活動はできませんでしたが、来年度も、ふるさとの川にたくさんのホタルの乱舞が期待できます。</p> <p>（評価） 地域は学校・子ども・ホタルのために参加し、学校は地域づくりの一翼を担うため開かれた学校を目指し、子どもたちは環境意識を高め、それぞれがふるさとへの愛着と命の尊さを学ぶことができ、改めて有意義な事業だと考えています。</p> <p>（今後に向けて） 引き続き、小学校との連携を強化し、美しい環境づくりを目指します。</p> |

#### （6）地域個性創出

|      |  |
|------|--|
| 事業名  | 文化振興   |
| 事業費  | 1,683,087円（交付金1,679,087円） <span style="float: right;">（内自主財源：4,000円）</span>  |
| 事業概要 | <p>（実施内容） 地域散策イベントや郷土学習講座の開講、文化財の活用に向けた調査・検討など、文化による地域づくりに取り組みます。案内板の整備や文化遺産資料の収集、文化の保存・継承に取り組みました。コロナ禍の影響を受け、散策イベントは中止となりましたが、郷土学習会には、地域を超えた参加者も多く好評を得ました。また、プレゼンテーションの審査を経て、交流促進特別交付金を得ることができたため、肥中街道の要所要所に石柱で道標を設置することができました。</p> <p>（実施時期） 通年</p> <p>（参加人数） 100人</p> <p>（成果） 例年好評を博している散策バスツアーは実施することはできませんでしたが、緊急事態宣言が解除された後は、毎月会議を開き、コロナ禍でもできることを模索したり、その他、地域づくり協議会のウェブサイトにて肥中街道の取り組みを掲載するなど広報と整備の充実に努めました。昨年に引き続き、古文書を教材とした「古文書読書会」を開催しました。多くの方に吉敷地域を知り、散策していただくため、今年度は肥中街道の大看板を設置し、文化の保存・継承に取り組みました。歴史的文化遺産を目で見て認識することができるようになったことの意味は大きいと感じています。</p> <p>（評価） 大内氏の海外通商ルートでもあった肥中街道を演題とした講演会を開催したところ、地域を超えた参加者も多く好評を得ました。地域住民が肥中街道に興味のあることが分かります。肥中街道の拡大案内看板の設置や凌雲寺跡の案内板の設置により、住民に吉敷地域を散策してもらうための基盤づくりができました。</p> <p>（今後に向けて） 引き続き、多くの地域住民の参加が得られる地域散策講座や郷土学習講座、歴史等散策ツアーの開催などに取り組み、文化による地域住民の交流をさらに進めていきます。</p> |